

3月21日(月)

私たちはどこへ向かうのか？

聖書朗読 詩篇 139:1～14

そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕えます。

詩篇 139:10

私の子ども達が小さかった時に一緒に何軒かのお店に買い物に行きました。まず、子ども達は「どこへ行くの？」と聞くので、私は最初に行く場所を答えました。すると「次は？」「その次は？」と私が「そのあとお家へ帰るよ」と答えるまで、ずっと行き先を知りたがりました。私たちはこの子ども達のようにではないでしょうか？ 私たちは神に対して「私たちはどこへ行くのでしょうか？」「その次は？」と聞いていませんか。未来のことについていつも知りたいと思っているのではないのでしょうか。

詩篇 139:10 には『そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕えます』と記されています。それなのに私たちは、神がずっと未来のことまで教えてくれたら、心構えが出来るのにとっています。私たちは何と愚かでしょうか。

私が義理の母と一緒に歩く時、彼女は私の腕につかまります。階段など危ない所へさしかかると、その都度そのことを彼女へ伝えます。もし、私が義理の母に「来週、病院へ連れて行く時、木の根が歩道まではみ出しているから気をつけて。入口まで3段階段を昇りますよ」と一週間も前から事細かに注意を促したところで、それは彼女にとってどれだけ役に立つ情報なのでしょう。あまり役に立つ情報とは言えないと思います。私が来週病院へ連れて行く時に、彼女に言えばいいのです。歩道にはみ出している木の根のことを、今から何日も心配をする必要は無いのです。

同じように神は私たちを少しずつ導いて下さいます。私たちは、神の右手によっていつも支えられており、神の左手が私たちの進むべき方向を示してください。私たちはその方向に向かって、信頼して歩んで行きましょう。

讃美歌 494

祈り 父よ。一気にではなく一歩ずつあなたに従えるよう助けて下さい。私たちはつい心配してしまいがちですが、その必要がないことに気づかせて下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

シャーロット・マイズ
テキサス州 ラボック

今日の力

2016年3月21日～3月27日

翻訳 伊藤若菜

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月22日(火)

全てに関して御名を称えましょう

聖書朗読 詩篇 148 編

野とそこにあるものはみな、喜び勇め。そのとき、森の木々もみな、主の御前で、
喜び歌おう 詩篇 96:12

私たち家族は国立公園を訪れることを趣味にしています。アメリカには58の国立公園がありますが、その半数以上を既に訪れました。アルファベット順だとアカディア国立公園からザイオン国立公園まで、地理的にはアラスカにあるデナリ国立公園からバージン諸島国立公園までです。

バットランズ国立公園の岩の色は神の御業を見せてくれました。グレート・スモーキー・マウンテン国立公園の緑のカーペットのような山々は、神の存在を確かに示していました。ハワイ火山国立公園の溶岩には、まだ現在進行形である神の創造の御業を見た思いがしました。テオドール・ルーズヴェルト国立公園の野生の馬、グランド・キャニオン国立公園の芸術性を目の当たりにすれば、あなたも分かるでしょう。様々な自然を目にすればする程、神の存在を確かに感じます。

詩篇 148 編は、大自然の中で神の存在が力強く感じられることを良く表現していると思います。創造主である神は様々な物を造られました。詩篇 148 編は、神によって創造された様々な被造物を次から次へと挙げていますが、人は11節まで出てきません。気象の様々なしくみ、大地や海、動植物、宇宙に存在する太陽や星、そういったもの全てが主のご栄光を現しています。私たちも、これらの被造物と共に神のご栄光を現すために、神によって造られたのです。

今度、美しい創造物を見て驚嘆した際には、私たちだけが御名を賛美している訳ではないことを思い出しましょう。神の創造物全てが、御業を証し神を讃えているのです。

讃美歌 90

祈り 天におられる父よ。十分に御名を賛美出来ていないと感じています。あなたが創造して下さった全ての物に感謝し、御名を讃えます。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジョッシュ・ボイド

インディアナ州 ラフィーエット

3月23日(水)

子どもを育てる知恵は神からの贈物

聖書朗読 箴言 1:1~10

主を恐れることは知恵の訓戒である。謙遜は榮譽に先立つ。

箴言 15:33

私は先週 56 歳になりました。86 歳になる父が、「お誕生日おめでとう」と電話をくれました。父のことを賢くない人だと思った時もありましたが、もうそうは思いません！

私の両親は 5 人のやんちゃな男の子達を育てました。父は働き者でしたが、トラック運転手だったのでお金持ちにはなりません。飢えたことはありませんが、贅沢な暮らしが出来た訳では決してありません。父は必要な物を買うために、給料をやりくりしました。そして、神のことと、また神と共にある生活について教えようとしていました。

その頃、私はトラブルを起こし始めました。十代の頃は、神のことは気にかけませんでした。正直な所、聖書が示している良い人生についての教えなど好きではなかったのです。両親がする全てのことに反抗し、彼らの教えを軽蔑し、私を教えようとする両親を困らせ、悲しませました。そして、私自身が結婚し自分の子どもを育てる時になって、やっと両親の教えが愚かな教えでなかったことに気づきました。

若い頃に箴言 1:8~9 に書かれている知恵を理解していたら良かったと思います。両親が完璧ではないことは知っています。しかし、彼らの知恵と愛は神からの贈物だったと思うのです。そして今、その贈物に毎日感謝しています。

讃美歌 501

祈り 神よ。あなたが与えて下さった贈物に気づけるよう助けて下さい。両親を通して、あなたの愛を感じられたことに感謝します。私の両親のように、子どもに対して忠実な親で居られるよう導いて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スタン・カニングハム

テネシー州 ナッシュビル

3月24日(木)

神の主権

聖書朗読 箴言 16:16～25

わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。

イザヤ 46:9

「心で決めた通りにすれば何でもできるよ」と良く耳にしますが、本当にそうでしょうか？ 私たちの人生における成功と失敗は、単に意志の強さの問題なのでしょうか？

人が考え出す理論には限界があります。そのように言い切ること自体、一つの「理論」だとすれば、矛盾しているように聞こえるかもしれません。しかし、ほとんどの人が賢いと認めるあのソロモンさえ、次のように言っているのです。『人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。』(箴言 16:25)。私たちは、自分の意志で進む道を正しい道だと感じるものです。しかしソロモン王は「そうではない」とこの聖句を通して伝えています。

ソロモン王は更に『人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。』(箴言 16:9) とも言っています。私たちは自分達で道を決め、計画を立てることが出来ます。しかし、私たちの歩みを支えて下さるのは、根本的には神様なのです。

私たち自身ではなく、「神様が私たちの歩みを支えて下さる」という御言葉の教えは、必ずしもいつも私たちが進んで受け入れたい教えではないかもしれませんが、私も神の大いなる主権について、全てをすっきりと理解している訳ではありません。しかし、私は「粘土」で神が「陶器師」であるという事実(訳注：つまり、私たちは神様の御手の中にあるという事実。エレミヤ 18:6 参照)を受け入れると、言葉にできない喜びを感じます。私たちは、自分の力だけで自分の道を支える必要は無いからです。

讃美歌 529

祈り ああ神よ。あなたが唯一の神です。あなた無しでも何でもできると思ってしま
う私を赦して下さい。あなたが私に、いのちを含む全てのものを与えて下さい
ました。あなたの恵みに感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

チャック・ブライアント
テキサス州 ラボック

3月25日(金)

タイトル

聖書朗読 箴言 26:1～11

私たちも以前は、愚かな者であり、・・・しかし、私たちを救って下さいました。
テトス 3:3,5

「滑稽でちょっと間が抜けている人」と言えば、私たちは次のような人々を思い浮かべるのではないのでしょうか。フォレスト・ガンプ、バーニー・ファイフ、ミスター・ブーンやジェスロ・ボダン(全て映画やドラマの登場人物)。これらの映画等の登場人物たちの人物像は、愚かで騙されやすいけれども実は繊細で善意の人、と言えるのではないのでしょうか。誰かのことを「ばか者(愚か者)」と言うような人は『燃えるゲヘナに投げ込まれます。』(マタイ 5:22)とイエス様は言われました。このイエス様のお言葉に、私たちはハッとさせられます。

愚か者とは、愚かなことをする人々のことです。私たちも皆、時々愚かなことをしてしまいます。しかし、真に「愚かである」と聖書が言っているのは、愚かなことをしてもその過ちから何も学ばず、何度も同じ過ちを繰り返すことです(11節)。そのように生きる人は、その愚かな行為を自分の喜びにさえてしてしまいます(箴言 15:21)。そして、その愚かさを改めることがとても難しくなってしまいます(3節)。そのような生き方は、最初のうちは誰かに害を与えるようなものではないかもしれませんが、そのうちに他人に対し悪影響を与えるように成りかねません。例えば、御言葉(聖書)を自分勝手に解釈して、(まるで投げ槍を放つかのように)他者を非難し、傷つけてしまったりするのです(9節～10節)。

では、どうすれば良いのでしょうか？ 明らかに愚かな主張や非難に対し、私たちは耳を貸し、何らかの応答をするべきなのではないでしょうか(4～5節)。それは状況と相手にもよると思います。時には何らかの応答をすることが賢い場合もありましょう。その相手が(良い意味で)変わるチャンスかもしれません(5節)。また、愚かな主張や非難に対し私たちが応答をするタイミングではない場合もあります。そのような場合には、応答をしても私たちが傷つくだけです(4節)。箴言にある御言葉を、私たちの実際の生活の中でどう生かしていったらよいのでしょうか。それは、ちょうど私たちが自分自身の体の状態と照らし合わせて適切な薬を服用するように、私たちの置かれている状況と照らし合わせて、箴言の御言葉が意味していることを考える必要があるのだと思います。

讃美歌 452

祈り 親愛なる父よ。私たちが愚かになっている時は気づかせて下さい。どうやって他の人々を助けられるか教えて下さい。愚かになっている時も助けて下さり、ありがとうございます。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

グレン・ペンバートン
テキサス州 アビリン

3月26日(土)

銀 と 金

聖書朗読 伝道者の書 4:7～12

鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。

箴言 27:17

♪新しい友達を作りましょう。でも旧友も大切に。
それぞれ銀と金のように大切だから。

子どもの頃よくこの歌を歌いました。ハーモニーが大好きでした。でも、歌詞の深い意味までは理解していなかったのです。

新しい友達は素晴らしいです。彼らを通し、今まで知らなかった世界を知ることが出来ます。私達の息子は大学で新しい友達を作り、それがきっかけで世界伝道の旅へ赴きました。また娘も同様に新しい友達を作り、宣教チームを通じて彼女の夫と出会いました。これらの恵みは全て、新しい友達を積極的に作っていった結果与えられた恵みでした。

旧友も勿論、価値があります。旧友たちは、理解し合える仲間とも言えましょう。同じ痛みを共有し、共に嘆いたこともあったでしょう。共に祈り、大変な時期には助け合いました。これからもこの関係は変わりません。新しい友達より気兼ねなく付き合えます。試練に遭った時には大切なことを思い起こさせてくれますし、進むべき道へと導いてくれることもあります。私達にはイエス様が与えられていて、イエス様は私たちを親友のように大切にしてくださっていますが、同時に地上的な意味での友も必要なのです。

賢者ソロモン王が伝道者の書4章12節で『三つ撚りの糸は簡単には切れない』と書いています。旧友と新しい友達、両方を大切にすることは、私たちがクリスチャンとしての互いに強められることに繋がります。あなたの周りの友人たちのことを改めて考えてみましょう。彼らが自分にとってどんなに大切な存在か、考えてみましょう。

讃美歌 第二編 189

祈り 親愛なる父よ。この地上での友人を与えて下さり、ありがとうございます。共にクリスチャンとして歩く友人がいるのは何と心強いことでしょうか。私の友人たちを祝福し、彼らをお守りください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ラニタ・ブラッドリー・ボイド

ケンタッキー州 フォートトーマス

3月27日(日)

愛 は め ぐ る

聖書朗読 伝道者の書 4:9～16

イエスはマルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。

ヨハネ 11:5

イエス様はしばしば、マルタやマリヤ、そしてラザロが住んでいた家を訪問なさいました。また、ご自身の変貌の時(マタイ 17:1～13等)やゲツセマネの園での祈り(マタイ 26:36～46等)の際、イエス様はペテロ、ヤコブ、ヨハネをお選びになりご自分と同行させました。さらに、イエス様はペテロとヨハネを最後の晩餐の準備のために、先に行かせています(ルカ 22:8)。

パウロは、コリント人への手紙第一、コロサイ人への手紙、テモテへの手紙第二、ピレモンへの手紙のそれぞれの結びの部分において、パウロの友人たちに挨拶を書いています。パウロは宣教旅行の途中、その訪れた先々で、祈りと学びのための小グループを作っていました。パウロは訪れた先々の人々と、祈りと学びを共にすることを熱心に求めていたからです。アクラとプリスカたちとも、パウロはかなりの時間を共に過ごしています。このような、(聖書にある)「小グループ」による密な交わりについて知って、私は心動かされました。そこで私は、4～5人から成る学びと交わりのための家庭集會を自宅で開催するようになりました。

こうして始めた私の小さな家庭集會でしたが、この集會から、さらに別のお宅での新たな集會も生まれて行きました。そして私たちは、こうした諸集會を「愛はめぐる」と(いう活動名で)呼び始めました。何故なら、共に時を過ごすにつれ、神の愛が人々のつながりを強めたからです。私は本当にこの小グループの集まりが楽しみです。箴言 18章24節に『滅びに至らせる友人たちもあれば、兄弟よりも親密な者もいる。』と書かれています。本当にその通りではないでしょうか。

讃美歌 403

祈り 親愛なる父よ。あなたの御言葉は私たちに、全て人を愛するようにと教えています。しかし私たちには特別な友も必要です。聖書の勉強と祈りを通して主にある絆を強められる友人をお与え下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ベティー・S・ベンダー

テネシー州 コロンビア